



平成18年1月24日

各位

MS分析用血漿前処理自動化システムに係る共同開発契約の締結に関するお知らせ

上場会社名 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社  
(コード番号 7707)  
本社所在地 千葉県松戸市上本郷 88 番地  
問い合わせ先 取締役業務本部長 秋本 淳  
T E L 047-303-4800  
U R L <http://www.pss.co.jp>

この度、プレシジョン・システム・サイエンス株式会社(代表取締役社長:田島秀二、以下PSS)と株式会社メディカル・プロテオスコープ\*(代表取締役社長:松山哲人、以下MPS)は、『MS分析用血漿前処理自動化システム』に係る共同開発契約を締結いたしました。

『MS』とは、『mass spectrometry』の略称であり、質量分析(法)<sup>(注1)</sup>を意味します。

現在、ヒト臨床サンプルを用いたMS分析は、疾患特異的な新規バイオマーカーの探索、治療薬に対する奏効や副作用マーカーの探索、あるいは創薬標的分子の探索などに利用されており、最終的には医薬品の開発やテーラーメイド医療の実現につながるものと考えられております。

本共同開発は、PSSがこれまで培ってきた自動化システム技術と、MPSによるMSを利用した臨床プロテオーム解析技術及び前処理技術を融合させることにより、従来にはないバイオマーカー探索等の効率を飛躍的に向上させる新規な自動化システム『MS分析用血漿前処理自動化システム』を開発しようとするものです。

現在、MSを利用した上記のようなバイオマーカー探索等の研究において、前処理工程は煩雑で時間がかかるマニュアル操作で実施されています。今回開発するシステムは、マニュアル操作における高い質の処理をハイスループットで実現し、迅速な研究及びその実用化を促進させることができる。

具体的な開発分担としては、PSSはシステム及び動作制御プログラムの開発、MPSはシステム最適化条件の設定及び検証を実施する予定であります。事前の共同研究によって、自動化システムに搭載する技術の基礎検討は完了しておりますので、本年6月の完成を目指し、システムの開発製造に着手しております。

本システム完成後、PSSとMPSは共同で、MSを利用したタンパク質解析を実施している研究機関などに向けて本システムの販売事業を展開する予定であります。また、MPSは自社においても本自動化システムを利用して製薬あるいは臨床診断に有用なバイオマーカー探索研究のスピードアップと効率化を実施します。MPSが有用バイオマーカー等の探索に成功した場合には、PSSとMPSは、協議の上、同バイオマーカーを利用した研究支援システムあるいは臨床診断システムの製品化・事業化に協力していくことにも合意しております。

なお、本共同開発契約によるPSSの本年度決算への影響は軽微であります。

以上

<ご参考>

\* 株式会社メディカル・プロテオスコープ

最先端のプロテオーム解析技術とバイオインフォマティクスを融合させ、ヒト臨床サンプルを用いた定量解析に基づき、疾患特異的なタンパク質群の特定と疾患メカニズムの解明を目的として設立された創薬基盤技術型バイオベンチャー企業。(平成17年10月19日日本経済新聞掲載記事等より)

会社名	株式会社メディカル・プロテオスコープ
所在地	東京都新宿区西新宿2-6-1新宿住友ビル17階
設立	平成14年11月
資本金	1,368百万円
代表者	代表取締役社長 松山 哲人
事業内容	臨床プロテオミクスによる医薬品開発

(注1)質量分析(法)とは

質量分析計により、試料からイオンを作り、イオンを質量と電荷の比に応じて分離し、イオン検出・記録を行う分析技術であり、合成化合物及び自然界や生体内に存在するタンパク質など分子の構造解析などに利用されております。

例えば、がんや生活習慣病など、ある種の疾患が発症した場合、あるいは病態の進行に伴い特異的に発現、変動するタンパク質を組織や血液中において質量分析法に基づく高感度な解析により特定することが出来れば、それらをバイオマーカーとして発症の有無はもちろんのこと、病態の進行やがんにおける悪性度、転移性の診断等が可能になり、疾患の早期発見、早期治療につなげることができると考えられます。